

開催月日 : 平成 29年 12月 25日

平成29年度第3回
定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス連携推進会議

時間	am/pm 10:00	am/pm 11:00	場所	かんだ連雀B2会議室
司会	浅見 達也		書記	尾崎 正紀
出席者	○千代田区高齢介護課介護事業指定係：●●●●様			
	○千代田区社会福祉協議会：●●●●●様			
	○千代田区高齢者あんしんセンター：川島典子様(神田地区)			
	○千代田区かがやきプラザ：常川知美様			
	○医療機関：●●●●様(三楽病院) ●●●●●様(杏雲堂病院)			
	●●●●●様(訪問看護ステーションHana-Kago・連携)			
	●●●●●様(アクア訪問看護ステーション・連携)			
	○知見を有する者：●●●●●様、●●●●●様、●●●●●様、●●●●●様、●●●●●様			
	○地域住民の代表者：●●●●●様			
	○指定事業者			
	かんだ連雀いつでもサポートサービス：峯俊美、浅見達也、尾崎正紀			
	会議内容	① 開会の挨拶		
かんだ連雀：峯俊美				
② 取り組み事例発表				
かんだ連雀いつでもサポートサービス：尾崎正紀				
③ ご出席者皆様よりご意見・講評				
詳細	② 取り組み事例発表			
	●余暇を充実してもらうための取り組み			
	自主的に何かに取り組むことが困難になっている利用者に対して、自宅での余暇の時間を活用して日常生活の活性化を図れないか。どのように取り組んでいるかを発表			

詳細

① 開会の挨拶

かんだ連雀：峯俊美

○介護・福祉に携われる方々であれば、ご存知の事とは思いますが、来年度には介護保険制度の改定が予定されています。定期巡回についても、いくつかの項目が変わってくると思われます。定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス連携推進会議の開催が他の地域密着型サービスと同様に年2回、6ヶ月に1度の割合に変更されるようです。定期巡回は国が定めてから5、6年が経過し、地域包括ケアと言われる「在宅」で高齢者が生活する環境についても、本腰を入れて考えていかなければならない時期にきています。定期巡回も取り組みの柱の一つとして自覚を持って努力していかなければなりません。本日も忌憚ないご意見を頂けますようお願いいたします。

② 取り組み事例発表

かんだ連雀いつでもサポートサービス：尾崎正紀

○自由に取り組んで頂けるよう個別にアプローチの仕方を変えていることを事例をもとに説明する。

(→かんだ連雀 浅見) 今回発表した余暇の取り組み以外にも、かんだ連雀では外出活動も行っています。利用者(93歳)本人の姉(97歳)と、ともに高齢になり、もう一度会いたいと遠方にお住まいで一人では行かれない。付き添いがあれば会いに行きたいとの希望があり、外出付き添いを行う。この事例では長時間の援助となり、定期巡回とは別枠の自費援助となりましたが、利用者のニーズを第一に考え、日々取り組んでいます。

●川上明美様：知見を有する者

○プライドの強い方は、ぬりえであっても完成度を求めてしまい、自由に色を塗ることに躊躇われることも。色の見本があるものなら、最後まで色塗りできた事例もあります。今回のアプローチは回想法を用いていますが、お手玉以外にもその方のお好きな歌を歌うことでもよいと思います。

●常川知美様：千代田区かがやきプラザ

○医療の視点が全く入っていない。取り組み内容がOT(作業療法士)の領域なのでは。であれば目標の設定がなされていない。このような取り組みは、定期巡回でないとできないことなのか？

(→かんだ連雀 浅見) 医療との連携は大きな課題であると思います。まだ手探りの状態であるので医療・介護の目線と割り切れない、生活の視点の取り組みになっているかもしれません。

○結果が数値化されると評価できる。例えばこの取り組みを通して、握力が向上したとか記録に残して行くことも重要だと思う。

●●●●●様：医療

○「生活の視点」はおもしろいことだと思う。その方の生き方、過去の生活歴を知ること。伝えてもらえるやり取りがとても重要だと思います。ぬりえの作品がどう変わっていったのか。時系列で眺めれば、医師なら効果を判断できるかもしれない。継続していくことで生活がどう変化していったかということがその中に出てくるはず。

●●●●●様：知見を有する者

○ぬりえをなさっていた利用者は、大好きな絵を描くことによって延命したのではないかと思っています。実際、余命宣告された期間を上回って在宅生活されました。ぬりえに生きがいを感じていたのでは。

●●●●●様：医療・連携

○評価の仕方ですが、長谷川式スケール（HDS-R）等簡単な認知機能テストを導入し、サービス前、中間、後で記録していくのもよいかと思います。

④ 閉会の挨拶

かんだ連雀：峯俊美

○今年1年のステップアップだったと思うのは、服薬確認やオムツ交換といった介護としてのお手伝いから、外出活動や余暇の取り組みに広がりを作ろうとしていることでした。研修で行ったスウェーデンでも利用者のニーズを聞くことが最重要とされ、「月に1度は映画館に行きたい」と訴えがあればそれを「人生を過ごすために必要なこと」と評価し実際に介護の一環として取り入れられていました。「人生を楽しんでいますか？」ということを決えず念頭に置き、取り組んでいきたいと思っています。

以上

